

「Accordion♪Accordion おたのしみ MusicBOX」 ぶらり訪問記♪

昼の部「るあんコンサート」14:00 開演 夜の部「アコーディオンナイト」19:00 開演

2019年11月26日(火) 杜のホールはしもと大ホール(相模原市)

昼の部取材させていただきました。

実は、夜の部の「ゆかいな仲間たち」紹介と演奏の中で、「関東アコの実行委員として筆者を紹介するので夜の部まで残って『ジョン・ライアンズ・ポルカ』と『小さな世界』を一緒に弾きませんか」と声を掛けてくださったので、アコを担いで出かけました。なので、夜の部も大体は聴いていたのですが、記事は昼の部が中心になります。

一音一会でボンジュール！

人々とつながりながら、ビックママプロジェクトというフィルターを通して「あそび」の精神を提供できることは幸せなことである。

「わくわく」の伝染！何よりも私たち自身が楽しまなくっちゃ、伝わらない。そのためにも、この日常の場面、場面を大切に生きていきたい。

これは、主催者がプログラムに載せた言葉です。このコンサートは、一般社団法人ビックママプロジェクトを立ち上げた主催者の想いの1つの形です。それはプログラムの構成にも見て取れました。

ロビーでは、(株)イケベ楽器店鍵盤堂と(株)トンボ楽器製作所による楽器の展示と試奏の「無料体験イベント」が開かれています。

平日の午後ということもあってでしょうか、席は比較的高齢の方々で埋まっています。舞台上をみるとパリの風景を描いたキャンバスと街灯がバックに置かれ、ピアノの前のテーブルには、手のひらサイズの蛇腹楽器、ボタン式アコ、ピアノ式アコが置かれて開演を待っています。

さて、昼の部「るあんコンサート」のはじまり！客席中央辺りの出入り口から千葉

さんがシャンソンのメロディーを流しながら登場。初めにちょっと楽器の説明。手のひらサイズの楽器はボタンの数が少ないけれど、1つのボタンで蛇腹を開いたときに鳴る



音と閉じたときに鳴る音が違うことをハーモニカにたとえて説明していました。

また、左手ボタンの機能（メジャーコード、マイナーコード）を実際に音を出して聞かせていました。ボタン式アコで「パリの空の下」を演奏、そして別の120ベースのボタン式アコに持ち替えて「パリの空の下」を演奏してプロローグは終了。この後、残りのメンバーが登場、4人揃っての演奏の始まりです。

最初は「おおシャンゼリゼ」、2曲目の「パリカナイユ」はフルートの方がうたっていました。もう1曲「スタイルミュゼット」を4人で演奏後、メンバーの紹介と使っている楽器の紹介です。管幸美さん（マンドリン・フルート・うた）、平田陽子さん（ヴァイオリン）、千葉薫さん（アコーディオン・ピアノ）、関山さえるさん（アコーディオン）です。マンドリンは弦が8本あり、2本ずつ同じ音にチューニングされていると紹介していました。楽器紹介の後、フランス映画「アメリカよりラノワイエ」を演奏。（写真はラノワイエ演奏の様子）



昼の部前半の最後は、「ジョン・ライアンズ・ポルカ」「チキンダンス」「ニコラエフブルガー」の3曲演奏。「チキンダンス」では振り付けを紹介して客席の皆さんと一緒に身体を動かしました。「ニコラエフブルガー」も演奏者が1人客席へ降りて一回りしながらお客さんを誘って客席とつながる1曲になりました。本当は、客席の皆さんが1つの大きな列になりたかったようです。(下の写真はの様子)



…ここで15分休憩…

後半は、「わらべ歌 with カリンバ」と題して、カリンバで「あなたがたどこさ」を弾きながら登場。カリンバは、手のひらに入るくらいの大きさで、並んでいる金属のリードを指ではじくとオルゴールのような音が出るフリーリードの楽器で、これもアコーディオンの仲間ですと紹介していました。また、「わらべ歌は、使われている言葉と音がとても心地よく、心の奥の方に響くので日本のよき伝統として歌い継いでいきたいです。」とのコメントでした。



わらべ歌の後は、サウンド・オブ・ミュージックメドレー「ひとりぼっちの山羊飼い～私のお気に入り～エーデルワイス～ドレミ」千葉さんは楽器をピアノに変えての演奏です。(上の写真)

続いては、「SLは行く」そしてロシア民謡「カチューシャ」に「ともしび」ここで、千葉さんが相模原市の城山で伴奏しているうたごえサロンの名誉会長（細川さん）を会場から招き「地域のつながりを大切にされている方です」と紹介、細川さんはそのまま舞台上で一緒に笛で汽車の発車合図を入れたり、マイクで「しゅっしゅ」と擬音を入れたり、また、歌詞コールをしながら会場の皆さんと一緒にうたいました。(下の写真)



次は、3人で「チャルダッシュ」を演奏。その後、4人に戻り「ゆかいに歩けば～ピア樽ポルカ～小さな世界」を立奏。途中から全員客席に下りて通路を一回り練り歩きます。客席の近くで演奏することは、お客様への「わくわく」の伝染の想いの形だったのではないのでしょうか、(下の写真)最後は舞台に戻り幕が下りました。



《夜の部:「アコーディオンナイト」》

プログラムは4つの箱に分けた構成です。1つ目の箱は、るあんのメンバーで「おおシャンゼリゼ」「パリカナユ」他2曲演奏。2つ目の箱は、アコーディオン仲間とのゆかいなステージで、5人が「人生のメリーゴーランド」「リベルタンゴ」等演奏。アコーディオンを習い始めて1年未満の方も演奏。(学んでいる方に大きなステージでの演奏

の機会を作りたかったと紹介されていました)。筆者は弾きませんでしたけれど関東アコの実行委員ですと紹介いただきました。

2つ目の箱の最後で、昼の部と夜の部の間の空き時間を使ってリハーサルしていた「ジョン・ライアンズ・ポルカ」を皆で演奏しました。

…ここで15分休憩…

3つ目の箱は、ゲスト、「Die Makrele」(阿部一真:アコーディオン&我妻靖:サクソ)の演奏。(二人は、昨年、関東アコーディオン演奏交流会の「バンド/アンサンブルの部」で第1位だったグループです)阿部さんは、地元宮城県の民謡をアコーディオンソロに

アレンジしたとジャズ風に演奏していました。また、「天使のミロンガ」他3曲演奏。会場からの大きな拍手に、アンコールで「鮫」を演奏。

4つめの箱は「フィナーレ」です。再びあんの登場、「場末のJAVA」(檜山学作曲)の他2曲演奏。最後は、昼の部同様、「ゆかいに歩けば～ピア樽ポルカ～小さな世界」で客席を一巡します。その際に客席で待機していた、2つ目の箱の「愉快的仲間たち」に楽器店も加わり、るあんの後に付く隊形で舞台上がり「ジョン・ライアンズ・ポルカ」を皆で賑やかに弾き幕となりました。

昼の部、夜の部を通して正にお楽しみMusicBOXの1日でした。(記:乙津)



後日、原稿の校正をお願いした際に、プログラムに載せた“「わくわく」の伝染”についてのメッセージを頂いたので紹介します。主宰者(るあん)の想いがよくわかると思います。(以下メッセージ)

「わくわく」は、楽しそうな私たちを見て元気になり、刺激を受けてわたしも何かやりたくなりました。というのがわくわくの伝染です。お客様の近くで、というのはより身近に音楽を楽しんで欲しいという想いです。ステージの上だけでなく会場全体がステージ、また、お客様とみんなで作っていく空間というものを大切にしています。



リハーサルの際に撮影されたホール内の写真を提供頂きました。見ていただくとわかるように舞台の両側に花道があります。客席中ほどにある出入り口の扉から入ると、そこは舞台と同じ高さなのでそのままステージへ歩いて行けるのです。

客席も緩やかな勾配です。椅子の位置も前列の椅子とは左右に少しずれているので、前の人の頭があまり気になりません。そんなホールの構造も主宰者の想いとピタッと会っていたようです。